

普及だより

●編集発行

大隅地域振興局農林水産部農政普及課

肝属地域農業改良普及事業協議会

ホームページ <http://www.pref.kagoshima.jp/chiiki/osumi/index.html>

鹿屋市打馬2丁目16-6

TEL：0994-52-2146

FAX：0994-52-2147

H26年度普及活動はこう変わる！！

平成26年度の普及活動は、肝属地域の農業振興上の課題、方針を踏まえ、H26年度～30年度までの5カ年計画を作成し、めざすべき姿を明確にした目標提案型として計画しました。活動に当たり、農業者や関係機関・団体と連携し、計画的かつ重点的に主に次のとおり普及活動を進めます。

H25年度普及活動のあしあと



1 肝属地域の次世代を担う若手農業者の育成

新規就農者、青年農業者、経営者塾生への発展段階に応じた支援強化、次世代を担う農業者の能力向上を図ります。

2 肝属の特性を生かした園芸産地づくり

○野菜は地域の特性を生かした品目推進、露地野菜大規模経営体育成等の産地ビジョンを策定、域内生産組織連携による新規就農者確保・育成を図ります。

○果樹は「マンゴー」無胚果発生対策・ヒートポンプ活用法確立・天敵利用技術の精度向上、「大将季」栽培技術確立・波及促進、生産量・共販額の向上を図ります。

○花きは、ブランド品目のスプレーギク産地維持拡大及び輪ギクの生理障害対策、栽培技術向上、県育成新品種を利用したテッポウユリの低コスト栽培による生産拡大を図ります。

3 茶産地の中核となる経営体の育成

大規模共同茶工場の経営体質強化、家族経営体支援強化のための改善案を策定・分析を推進します。

4 飼料作物の自給率向上による中核的畜産農家の育成

肉用牛は増頭志向農家を重点に支援体制整備し、自給飼料確保による段階的増頭方を推進します。

5 安心・安全な野菜・果樹生産確立・定着による地域農業の活性化

農産物への安心・安全志向に応えた栽培体系確立普及し、農業者の労力削減、農薬被ばく軽減等の対策及び消費者や地域への理解促進を図ります。

6 地域農業の維持発展のための営農システムづくり

集落営農組織の育成、水田、畑作、畜産農家の一体的活動による地域営農システム化を図ります。

7 肝属中部地区の水利用による生産性の高い営農の実現と担い手育成

平成28年度一部通水に向けた畑かん理解促進、話し合い活動による農地集積等の検討を進めます。

< 青年農業士の認定者紹介 >



中辻 友成 さん
串良町（輪ギク）

肝属地区から新たに青年農業士に認定された方を紹介します。
中辻友成さん（29歳）は平成19年に就農後、鹿屋市串良町で両親と150aの輪ギクの栽培をおこなっています。

平成25年度に日頃取り組んでいたプロジェクト課題である「土壌分析に基づいた施肥設計で塩基集積解消！（これでだめなら天地返しだ）」の発表をおこないました。

プロジェクト活動をとおしての課題可決能力の獲得、地域活動への貢献等が評価され、平成26年2月に青年農業士として知事に認定されました。

市場評価の変動が大きな花き業界で経営を維持する事は大変な事。作業で気をつけているかたずねると「市場からの評価を落とさないようミスの発生には一層の注意を払っている」とのことでした。栽培に対する真摯な姿勢と緊張感が伝わります。

地区の農業発展には青年農業者の役割は大きいと自らの立場を自覚を持ち、花きの需要拡大を図るため、フラワーアレンジメントやイベントへの積極的な参加、6次産業化の進出などの「攻めの農業」を実践しています。

中辻さんからは「花が好き」「仕事が楽しい」という姿勢が伝わってきました。家庭に戻れば3人のパパとして家族サービスに追われているとの事、公私とも充実している青年農業士です。

< 女性農業経営士の認定者紹介 >



後藤 千佳子 さん
南大隅町（施設野菜・茶）

女性農業経営士とは

- ① 家族経営協定の締結などにより農業経営に積極的に参画し、生活管理能力に加えて、農業技術や経営管理・労働管理等の高度な技術・知識を有する者
- ② 農業経営や地域農業の課題解決に積極的に努め、発言力や実践力のある地域の女性リーダーとなりうる者
- ③ 県が実施する女性農業経営士養成研修を終了した者で、概ね60才までの者

※県内で367名、肝属管内で32名が認定されています

【後藤さんから一言】

平成7年度に東京から1ターンして就農しました。

豊かな自然と心温かい人たちに恵まれたこの土地で、農業に取り組めることに幸せを感じています。農業は無量大の可能性のある仕事だと思います。

夢を持って、仲間づくりを大切に。自分の仕事に誇りを持つよう一緒に頑張っていきましょう。

<県青年農業者会議で肝属連協3名が受賞>

肝属地区農業青年クラブ連絡協議会（肝属連協）を構成する6つの単位クラブは、特色ある独自の活動を展開し、プロジェクト活動も活発になってきました。

平成26年2月に薩摩川内市で開催された県青年農業者会議での発表は、どの発表もレベルが高く、観衆を感動させる内容でした。その中で、肝属連協のプロジェクト発表1名・意見発表2名の合計3名が受賞しました。

【プロジェクト発表の部】

○鶴園貴之さん(畜産部門 鹿屋市輝北町農業青年クラブ)

「哺乳管理による分娩間隔の短縮」のタイトルで、専門以外の人にも分かりやすい発表でした。「複数の対策案を整理した上で、自分の経営に最も適した対策を仮説を基に順を追って取り組んだ」と高く評価され、優秀賞を獲得しました。

【意見発表の部】

○大平龍美さん(花き部門 鹿屋市農業青年クラブ)

「“七光り”のままでは終われない」のタイトルで、メリハリのついた発表でした。「タイトル・切り口がいいので、主張が明白」という点が高く評価され、最優秀賞を獲得しました。

○村山智紀さん(畜産部門 串良町4Hクラブ)

「食育『酪農版』～子供たちに牛乳の良さを～」のタイトルで、「とにかく話がわかりやすく、酪農と食育に対する篤い思いが、よく伝わってきた」と高く評価され、優秀賞を獲得しました。



<九州大会にも3年連続進出！>

平成24年度の県青年会議で優秀賞を獲得した山下拓さん(畜産部門 鹿屋市農業青年クラブ)は、25年度には、九州・沖縄青年農業者会議にも出場し、「蹄病予防で健康な牛づくり」のタイトルでプロジェクト発表しました。

同様に、25年度に受賞した鶴園貴之さんと大平龍美さんは、26年度開催される「九州/沖縄青年農業者会議」への出場が決まりました。肝属連協からは、3年連続の九州大会出場となり、お二方の健闘が期待されます。



知って得する!技術情報!!～畑かん編～

<台地に畑かん・潤う農業>

肝属地域では、国営事業などにより笠野原地区（鹿屋市，肝付町）や肝属南部地区（錦江町，南大隅町），曾於南部地区（鹿屋市輝北町）の受益地内に畑かん施設（給水栓）が設置されており、水が必要なときにいつでも利用ができる農業が展開されています。

現在、肝属中部地区（鹿屋市，肝付町）においても、ダムやファームポンド（貯水タンク）、パイプライン整備などの大規模畑地かんがい事業が実施中であり、平成28年度から順次水が利用できることとなっています。

今回、畑かん施設（給水栓）に接続し利用できる散水器具をいくつかご紹介します。

○ 噴射ホース

【 特長 】

- ・は種直後や背の低い作物への散水に適している。
- ・畑への設置及び撤去が容易である。
- ・畑の形状に合わせて設置ができる。



○ レインガン

【 特長 】

- ・水が遠くまで飛ぶことから、短時間に多量の散水ができる。
- ・畑の形状に合わせて設置ができる。



○ スプリンクラー

【 特長 】

- ・多くの作物への散水に適している。
- ・畑の形状に合わせて設置ができる。
- ・設置や撤去の手間がいない固定式もある。



○ 自走式散水器具（ロールカー）

【 特長 】

- ・器具の設置や撤去に時間がかからず、また、ほ場間の移動がし易い。
- ・軽トラックでも器具の運搬ができる。
- ・散水が自動的に停止できる。



※ 畑かん施設（給水栓）利用に関するお問い合わせは、あなたが加入している土地改良区へお願いします。

知って**得**する! 技術情報!! ~作物編~

害虫防除の徹底で実りある収穫を

<普通期水稻編：トビイロウンカ防除>

海外飛来性害虫のトビイロウンカが、本県水稻作に毎年大きな被害を及ぼしています。昨年もウンカ類の飛来数は平年より少ない傾向にありましたが、その後トビイロウンカが多発生し、9月には坪枯れ被害が多くみられました。そこで、今後の対策について紹介します。

対策のポイント!!

- (1) 移植時期を遅らせることは、ウンカの飛来・定着量を低減させるため有効です。
- (2) 箱施用薬剤の使用において、移植当日の薬剤処理に比べて、移植1~3日前の処理の方が効果が高い事例もみられます。但し、薬剤ごとに処理時期の登録内容が異なるので、登録内容の確認が必要です。
- (3) 箱施用薬剤の使用と併せて、第1世代にあたる7月下旬~8月上旬の生育前半の本田防除が、その後の増殖を抑える上で最も有効です。



<植付後の甘しょの管理について~高単収生産者が取り組んでいること~>

原料用甘しょは、気象災害に強い作物とされています。しかし、収量を安定させ収益を上げるためには、適期管理が必要です。収量が伸び悩んでいませんか？

今後の管理について、高単収生産者の聞き取り調査をしました。植付後の管理について、重視する内容は、「食葉害虫の効果的防除」でした。高単収生産者が考える「対策とメリット」を紹介します。

○若齢幼虫のうちに防除

- メリット1 若齢幼虫であれば、農薬がよく効く。
- メリット2 比較的安価な農薬でも効果がある。
- メリット3 葉をほとんど食べられないうちに防除できる。

○周囲の草払いを徹底する

- メリット1 害虫発生が緩慢になり、被害が軽減する。
- メリット2 害虫発生が緩慢になり、防除遅れが少ない。
- メリット3 やむなく防除が遅れてしまった場合でも、大きな被害を受けにくい。



ハスモンヨトウの幼虫



ナカジロシタバの幼虫

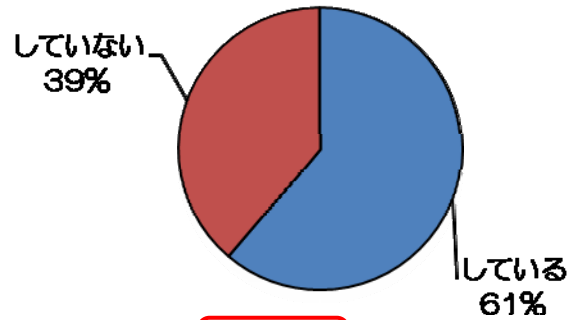
知って得する!技術情報!!～畜産編～ 母牛と子牛の適切な飼養管理で発育の良い子牛を

今年の始め生産牛農家のみなさんにアンケート調査を行いました。ご協力ありがとうございました。今回は、結果の一部を報告します。

1. 分娩前後の増飼いについて

○アンケート結果を見ると、多くの農家が母牛の栄養状態を気にしていましたが、分娩前後の増飼いを実施している農家は約6割でした。

分娩前後の増飼い



適切な分娩前後の増飼い

- ・分娩2ヶ月前から徐々に始め、配合飼料の給与量を1日1～2kg増やす
- ・分娩後も授乳と次の受胎のために2ヶ月間(受胎確認まで)増飼いする
- ・配合飼料の増量は母牛の栄養状態を見ながら調整し、粗飼料は飽食にする

効果

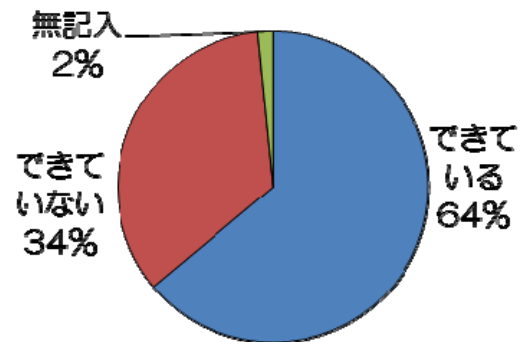
- ☆元気な子牛が生まれ健康に育つ
- ☆良質な初乳を飲める
- ☆良質な母乳をたくさん飲める
- ☆分娩後のスムーズな受胎を可能にする

2. 子牛の管理について

○生後5ヶ月齢までは濃厚飼料主体、6ヶ月齢以降は粗飼料主体で子牛の育成管理ができていない農家は約6割でした。

*子牛育成マニュアルに沿った育成管理を実施することで、初期の発育が良くなり、商品性の高い子牛を育てることができます。

適切な子牛の育成管理



子牛が良好な発育をするには

生後5ヶ月齢まで
粗飼料で必要な養分量を満たせない時期

濃厚飼料主体で飼います

目的

- ・反芻胃の胃粘膜を刺激し、絨毛の発達を促進させる
- ・骨格や筋肉の発達促進

6ヶ月齢以降
粗飼料で必要な養分量を満たせる時期

粗飼料主体で飼います

目的

- ・無駄な脂肪の付いていない、すっきりした子牛をつくる
- ・肋張りのある、食い込みの良い子牛をつくる

*詳しくは、肉振協配布の子牛育成マニュアルをご確認ください。

知って**得**する!技術情報!!～野菜編～

防風・害虫対策として畑の周囲に“ソルゴー”を!



近年、農業生産物の生産性を維持しつつ環境にも配慮した病害虫防除法として「総合的病害虫・雑草管理」(以下、IPM)が注目され、その中で天敵昆虫を利用した害虫防除技術が普及してきています。

一方、従来から防風対策等に利用されてきた“ソルゴー”に、アブラムシ類等の土着天敵を温存する機能が確認されるなど、近年、露地野菜を中心としたIPM技術の一つとして注目が高まっています。

そこで、今回は“ソルゴー”の効果や利用時のポイント等について紹介します。

1 露地野菜のIPM技術でソルゴーに期待される効果

- (1) アブラムシの土着天敵の温存
(土着天敵を誘引・定着させアブラムシを防除)
- (2) 害虫の侵入に対する障壁
- (3) 防風対策
- (4) 農薬のドリフト防止

→写真：露地かぼちゃ圃場におけるソルゴー
(品種：三尺ソルゴー)の栽植状況



2 ソルゴーに発生するアブラムシと土着天敵

- (1) ヒエノアブラムシの増加

ソルゴーの生育が進むと、**イネ科の植物に特異的に寄生するアブラムシ類(代表種：ヒエノアブラムシ)**が発生し、それらを天敵類の餌とするのが、IPM技術の重要なポイントです。

- (2) アブラムシの土着天敵の発生

ソルゴーで増加した**ヒエノアブラムシ等を餌に、天敵であるテントウムシ類やヒラタアブ類**などが発生します。これらの土着天敵は野菜類にも移動し、そこに発生したアブラムシ類を捕食します。



※ヒエノアブラムシ(左写真)

- ・体色は淡黄色、赤紫色
- ・ソルゴーの葉に、数千頭の発生が見られる場合もあるが、野菜類には寄生しない

※ヒラタアブ幼虫(右写真赤枠内)

- ・枠外に“ヒエノアブラムシ”



3 利用できる主なソルゴー品種と利用のポイント

○「三尺ソルゴー」

ヒエノアブラムシ等の発生が多く、土着天敵温存性あり。草丈は130cm程度で耐倒伏性は強い。

○「高糖分ソルゴー」：ビッグシュガーなど

土着天敵温存性や害虫への高い障壁効果が期待できる。草丈は高く200cm以上。

- (1) ソルゴーは**平均気温15℃以上**(県本土平野部では4月中旬以降)の時期に、播種機などを用いて圃場周辺に直播きします。(湿害を避けるため排水対策に留意)

- (2) ヒエノアブラムシ等は野菜類には寄生せず、土着天敵の餌となることから、**これらの防除を目的とした殺虫剤の散布は必要ありません。**(情報提供：鹿児島県IPMネットワーク通信)

● 県では、環境と調和した農業を推進するため、IPM技術に関する情報を共有し実践農家への支援等に御協力いただける「鹿児島県IPM情報ネットワーク参加者」を募集しています。
詳しくは、県ホームページ(「IPM情報ネットワーク」を「検索」)で確認されるか、鹿児島県農政部食の安全推進課(TEL:099-286-2891(直通))にお問い合わせください。

＜大隅地域の農業を担う「金の卵」達を育成＞

～おおすみ農業法人経営者塾～

大隅地域（肝属及び曾於）では、次代の大隅農業をリードしていく「若手経営者」を育成するため、平成24年度より「おおすみ農業法人経営者塾」を実施しています。

この塾は、大隅地域で営農を行っている農業者や農業法人経営者、及びその後継者（原則として50歳未満）を対象としており、県内外の著名な講師より企業家に必須のマネジメントの基本を学び、また自らの「農業の成長戦略」を考え実践する内容となっています。

（平成25年度開催内容）

開催月日	講義	テーマ	演題	講師
H25.7.9	開講式	・ オリエンテーション		
	第1回	トップ経営	(有)トップリバーの経営戦略	(有)トップリバー
H25.7.22			県外事例調査	熊本県
H25.8.20	第2回	販売戦略	売れている商品に学ぶ 「モノ」ではなく「コト」を売ろう	イオン九州(株) 杉ノアグリ・コミュニケーション研究所
H25.9.4	第3回	リスク管理	我が社の経営展開と取り組み 失敗事例に学ぶ農業経営のあり方	(株)野菜くらぶ (株)日本政策金融公庫鹿児島支店
H25.10.3	第4回	経営革新	会社を元気にするために、何をなすべきか	(株)トヨタ車体研究所
H25.11.14	第5回	経営戦略	農業経営戦略論～より「人材」を活かした経営に～	佐賀大学大学院
H25.11.25	第6回	(演習)	経営戦略取りまとめ	
H26.1.27	シホヅルム 成果発表会	基調講演 ・ 閉講式	マーケットに基づく農業経営の成長戦略	(農事)和郷園

全ての講義で、「我が社(家)の経営戦略」の作成演習あり

平成24年度は27名（平均年齢は34.3歳）が受講し20名が修了、25年度は21名（平均年齢32.9歳）が受講し20名が修了しました。

塾生に毎回行ったアンケートから、講義に対する満足度は「83%」と高い評価で、「自分がこれから引き受けるべき経営を考える良い機会となった」「経営戦略を作成するに当たり、初めて親と経営について語り合えた」などの意見が寄せられました。



写真1 我が社(家)の経営戦略作成の様子



写真2 閉講式にて修了証を手に記念写真

県事業としては、平成26年度が最終年度となります（以降は地域事業として継続予定）。塾生募集は平成26年6月頃を予定しており、募集人員は大隅地域（肝属及び曾於）で20名となっております。

この塾の受講を希望される方や詳細については、大隅地域振興局農政普及課（担当：大保 電話52-2143）までお問い合わせください。